

Title	杉程次郎氏著 「最近貨幣論」を評す
Sub Title	
Author	萩原, 吉太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.3 (1923. 3) ,p.485(173)- 495(183)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19230301-0173

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

關係する現象もまた個別的觀察をなし得ると共に、普遍的觀察が可能である。こゝで著者は普遍的文化的科學を認める。これが所謂社會科學である。さうして著者の社會學は所謂普遍化的文化科學の一である。即ち社會學は從來の社會學者によつて考へられたやうに、他の社會科學を從屬せしめて其上位に位するものではないのである。そは一の特殊の社會科學である。然るが故に著者は社會の第一原理を探究せんとする。一般的社會學の可能を否定し、社會學と社會哲學とを嚴密に區別すべしと主張する。

然らば社會學は何を其の研究の對象とすべきか。そは社會そのものである。さうして社會を社會たらしめるものを呼びて結社的者(The social or associational, das Verbandliche) と云ふのであつて、其の本質は「望まれたる共存」である。さうして社會學の目的は社會を中心として、其の原因、其の結果、其の相互關係の三方面に着眼し、其の間に行はるゝ法則を明らかにするのである。かゝる社會學的法則は心理的傾向律的

の法則として表はれ、その自然科学的法則と異なるは、之が一の社會形態のみに妥當であることに存する。即ち社會學的法則は一の歴史的條件を前提としてのみ妥當性を有する。

著者はこの見地に立つてその社會學を構成した。所論大概當を得てゐると思ふ。評者は文章のことに就ては、他に注文するだけの力量を持つてゐるものではないが、著者の文章にして尙ほ一層平易で、通讀に容易であつたら、本書が社會學を普及する上において、一層の効果を收めたであらうと思ふ。素より文章の如きは、その中に盛られたる思想に對して、一層大なる價值を持つてゐるものではないと思ふが、たゞ此の良書が文章のために讀まれないとすれば、我が學界の不幸これに過ぎないのであらう。斯くの如き外形上の小なる缺點は兎に角、本書は不振なる我が社會學界に於ける最新最良の書たるを失はないものである。切に社會科學研究者の愛讀を祈る。

(加田 哲二)

杉程次郎氏著「最近貨幣論」を評す

未だ外國書によりて啓發せらるゝこと多き時代に於ては、學者の良心の缺乏せる三四の人々が翻譯書を以て自家苦心の著書なるかの如く装ひ、公刊忽ち假面を剝奪せられたるは嘗て經驗せるところなるが、最近に至り新たに邦書の翻案を企て、これを著書なりと公言するもの、現はれたるは、眞に曠古の現象なり。余はこの現象を以て我が國は既に外國書の翻譯時代を去り、独自の研究時代に到達することを得たる證左とするに足るべしと確信し、私かに慶賀に堪えざるものなり。而して最近余に斯くの如き愉快なる確信を齎したるは、中央大學專修大學教授法學士杉程次郎氏の「最近貨幣論」にして、若し余の確信が誤解に基くものなりとするも、杉氏が「最近銀行論」及び「最新經濟學」と相前後して公刊したる右の「最近貨幣論」は尠くとも我が國に於ける貨幣に關する著書の中、邦書の翻

案を以て著述(編纂にあらず)をなしたる最初の出版物たるの名譽を有するものなり。

寡聞なる余はこの名譽を有する「最近貨幣論」の著者杉氏の名聲に關しては最近に至るまで多く知ることなかりしが、多年斯界の開拓に従事し、研鑽よくその蘊奥を極めたる一事は、若し羊頭を掲げて狗肉を賣るものにあらずんば、巻頭の序文によりても略ぼこれを推知するに難からず。曰く「余や久しく私立諸大學に於て金融論貨幣論及銀行論等に關する講座を擔任し學理と實際とを對照して各種問題の講究に務め吾人の日常使用しつゝある貨幣の真相を探究しつゝあり」云々。而して既に堂に入りたる著者杉氏の眼に、從來權威を以て許され定評ありし貨幣論の多數の邦書が、殆んど粗漏杜撰、何等齒牙に掛くるに足らずと映じたるは、誠に當然にして杉氏が悲憤慷慨の餘り「坊間鬻ぐ所の貨幣及銀行に關する書籍其の數決して尠しとせず然れども其の多數は繁閑宜しさを得ず探して以て參考に資すべきもの頗る寥々たるの有様なるは吾人

の常に深く遺憾とする所なり」と痛嘆惜く能はざるは、また杉氏の意氣の勇壯なる、能く懦夫をも起たしむるものあり。夙に名譽の恩賞を受けて最高學府を出たる杉氏の銳鋒は、久しく顯はれずして囊中に隠るゝことなし。學界に波瀾を重疊にし、墮眠を覺醒せんがために、他人の金玉の文字を利用して貨幣論一卷を著す。その間恐らく起稿推敲に旬日を要したるに過ぎざるべし。俚諺に良賈は深く藏すを戒む、然かれども深く藏せんとして能はざるものは、稿なるや刮厥の一日も速かならんことを冀ふ、また已むを得ざるなり。故に杉氏は「徒に發刊を自重し研究を空しく筐裡に秘すべきにあらざるを」云爾す。

邦書の翻案を以て著書を作す。これ既に一新紀元を劃したる壯舉なり、然かも杉氏は深遠なる學識と絶倫の霸氣と而して痛快なる壯言を以て寥々たる邦書の内より僅々數種を選択して、専ら、著書「最近貨幣論」三篇十章五十四節の中大約五分の三を埋む。寔に前代未聞、學界の稀觀す。

なりと云ふべし。而して茲にその原書(この語は久しく外國書の意義に用ひられたれども、今や杉氏の新例によりて、その意義を擴張せられて、邦書をも包括することあるに至れり)は、堀江博士の「貨幣論」と佐野博士の「貨幣論」の兩書なり。(この外に山崎博士の著書をも校照せんと欲したれども遂に果さず。故にこの點余の校照不完全なるを免れざるなり)以下少く兩書を比較對照して杉氏の苦心の存する處を察し、併せて、前段縷述せるところの決して游言に非ざるを明かにせんと欲す。以下單に堀江博士とあるはその「増訂改版貨幣論」(第十五版)、また佐野博士とあるはその「貨幣論」(第三版、現在この書は絶版なりと聞く)なりと知らるべし。全文を對照せんは到底煩勞と紙數の許す處にあらず。故に各篇二三の例示に止めたり。偏に讀者の諒恕を乞ふ所以なれども、敢て一斑全豹を推すに大過なしと信す。

最近貨幣論
第一篇 總論

第一章 緒言

本章は佐野博士緒言の移植なり。佐野博士は緒論を分ちて三節とせるを杉氏は之を巧みに合體せるに過ぎず。

左に杉氏の直譯振りを示さむとす。

佐野博士 八頁—九頁

「現今諸國の大學に於て經濟學を講ずるに當り經濟原論及び經濟政策の外尙ほ別に貨幣論の一科を設け是等講座に於て説明する概論のみを以て満足せず特に之を研究するもの多きは決して偶然に非るなり。

杉氏 四頁—五頁

現今諸國の大學に於て經濟學を講ずるに當り經濟原論及經濟政策の外尙ほ別に貨幣論の一講座を設け經濟原論等に於て説明する概論のみを以て満足せず特に之を究する者多きは決して偶然に非るなり。

見る可し。一科を一講座と改め討究を研究と改むる等意匠慘澹たるを。

第二章 貨幣に關する概念

第一節 貨幣の起源

堀江博士第一章第一節

佐野博士第四章第一節

第二節 貨幣の定義及範圍

第十七卷 (四八七) 新刊紹介

佐野博士第五章第二節
第三節 貨幣の職分
本節は堀江博士佐野博士よりの引用殆どなし。しかれども絶無とはなすべからず例、ば次の如し。

佐野博士 四二頁

物々交換に於て交換貨物の種類及び量に付き需要供給の投合せざる不便あること前節に述しか如し。是等の不便は或利器を用て之を避けざるに於ては分業爲めに行はる、能はず各人は終に其自ら要する所の物を自ら生産せざるを得ずして經濟の進歩産業組織の發達は得て之を望む可からざるなり。

杉氏 二〇頁

既に述べたる如く實物交換に於ては交換貨物の種類品質及分量に付需要供給の投合せざる不便あり。是れ等の不便は或利器を用ひて之を避けざるに於ては分業爲に行れず各人は遂に其の自ら需要する所のものを悉く自ら生産せざる得ざるに至るへし従て經濟の進歩産業組織の發達は之を望むべからず

第四節 貨幣の性質

佐野博士第四章第四節

之にて杉氏第一編終る。

第二編 硬貨論

第一章 貨幣の鑄造及流通法

第一節 貨幣流通の變遷
説述法堀江博士と相似たり。

第二節 造幣の意義及目的

佐野博士第六章第一節

第三節 造幣の進歩及形狀

佐野博士第六章第二節

佐野博士が「造幣の進歩」と題せるに形状の二字を添加せるは正に杉氏の發案なり

本節は悉く杉氏の筆になれるものなるべし。その一斑を示せば

「英國に於ける貨幣の種類は十四種あり即ち、左の如し。

金貨—半磅(Pound)一磅一磅四磅の四種云々」と。

第五節 造幣權

佐野博士第六章第四節

第六節 造幣局の設備

堀江博士第三章第一節

久しぶりにて堀江博士の文章を見る。

第七節 造幣上注意すべき要件

兩博士の字句を見出す。

右三節には堀江佐野兩博士の文章發見せず

第三章 金銀の生産及比價

第一節 金銀の生産

堀江博士第七章第一節及第二節

第二節 金銀比價の關係

第三節 金銀比價變動の影響

第四節 金の生産獎勵に関する提案

第五節 最近に於る金銀相場變動並ひにピットマン條

例

以上兩博士の文章なし。

第四章 貨幣の本位

第一節 本位制度の種類及本位制定の標準

堀江博士第五章第一節

第二節 單本位制

堀江博士第五章第二節

第三節 複本位制

兩博士の文章なし

第四節 國際複本位制

堀江博士第五章第五節

佐野博士第十四章第二節

第五節 跛行本位制

佐野博士第十四章第三節

第六節 金替爲本位制其他

第十七卷 (四八九) 新刊紹介

第八節 公差

佐野博士第六章第三節
第九節 通用最輕目、廢損貨幣の改造並造幣試驗

兩博士の文章なし。

第十節 造幣制度並造幣料

佐野博士第六章第六節

第十一節 本位貨幣

第十二節 補助貨幣

第十三節 グレンシャム法則

第十四節 法律及習慣の貨幣流通上に及ぶ影響

右四節は兩博士の文章と同一の個所なし

第二章 貨幣の價格

第一節 貨幣價格の意義

兩博士の文章なし。

佐野博士第十一章第二節

第三節 貨幣價格の決定せらるる原因

兩博士の文章なし。

第四節 貨幣價格の變動を測知する方法

佐野博士第十二章第五節

第五節 貨幣價格變動の經濟社會に及ぶ影響

第六節 物價問題特に物價騰貴の趨勢並原因

第七節 物價調節策

佐野博士第十四章第四節

第五章 貨幣の制度

第一節 列國現行貨幣制度の概要

堀江博士第八章

第二節 萬國共通の貨幣制度

兩博士の文章絶無

第三節 日本の貨幣制度

佐野博士附錄

素より佐野博士も明治財政史其他による

旨記載せられたりと雖も、杉氏の本節の云

出しの佐野博士のそれと符合せるよりみれば

余輩は杉氏が例により佐野博士によれる

ものと看做さるるを得ず。

之を以て第二篇を終る。

勿論上掲によりて對照するも或は全節等しき

こともあり、或は十行内外に止ることあり。或

は發見容易なるあり、或は依稀として發見に困

難を感ずることもあるべく悉く一揆なりと思惟

すべからず。次に本篇を終了するに當り、特

色ありと思はるるものの中よりその一例を示さ

んと欲す。

第三號 一七七

堀江博士 一七七頁
國家は如何なる地點に造幣局を設立すべきか。此問題を決定するには産金國と非産金國との間に區別を設ける必要あり。即ち産金國に於ては造幣局は他に著しき支障の存せざる限り之を鑛山の附近に設立し鑛山より採掘精練したる金屬は直に之を造幣局に輸納し貨幣として諸地方に分配するを以て便宜に適したるものとす。

杉氏 五七頁
政府は造幣局を如何なる地點に設立すべきや。此問題は貴金屬生産國たるに然らざると依りて自ら差異あり。貴金屬生産國に於ては造幣局は可成之を鑛山附近に設け、鑛山より採掘精練したる金屬は直に之を造幣局に輸納し貨幣として各地方に分配するを便宜とす。

杉氏バラフレイズの巧みなる感服の外なし。就中「他に著しき支障の存せざる限り」を僅々「可成」の二字にて表せる邊り堂に入れるものと云ふべし。

堀江博士 三六六頁
濠太利の産金額は稍や恢復の徴候を現はし合衆國の金銀業も亦盛大に赴かんとし殊に南阿弗利加に

於て新に金銀の採掘せられたる爲め再び世界に於ける産金額を増加する勢となり第七期に於て最も明に此事實を見るに至り十九世紀の終には世界の産金額は加利福尼亞濠太利の金銀發見當時に於ける産額の二倍以上に上れり。

杉氏 一八九頁
第十九世紀の終に臨み濠太利の産金額は稍恢復の徴候を現はし合衆國の金銀も亦次第に盛大に赴き殊に南阿弗利加に於て新金銀發見せられたる爲世界に於ける産金額を増加するの勢となり其産額はカリホルニヤ濠太利の金銀發見當時に於ける産額の二倍以上に達するに至れり

堀江博士 二七一頁
凡そ萬般の貨物は需要供給の關係に依て常に價値に變動の生ずるを免かれず故に價値の尺度として金を用ひ或は銀を用ゆるは既に變動極まりなき貨物の價値を測定するに更に價値の一定せざる標準を以て之に充つるものにして到底不完全の嫌なきを得ず

杉氏 二三〇頁
凡そ百般の貨物は需要供給の法則に従ひ常に價格の變動あるを免れず故に價格の標準として金又は銀を用ふるは既に變動極まりなき貨物の價格を測

定するに一定せざる標準を以てするものにして到底不完全の嫌なきを得ず

殊更肝腦を絞りて萬般を百般と改め關係を法則となせる杉氏の苦心、歴然たるものあり。同様の巧妙なる修辭は佐野博士の文章に對しても施されたり。到底凡手の企て及ばざるところなり。

佐野博士 二二六頁
現今貨幣數量説を奉ずる學者其數尙は尠なしとせば又同説を奉ずる者の所説必しも全然合致せざるが如しと雖も同説を唱ふる者は大抵皆復本位論者たるの觀あり是れ蓋し世界各國が皆金貨單本位の制を採るに於ては貨幣用貴金屬の供給潤澤ならずして甚しく物價を動搖せしむべしとの論據に基くものなるべし米國のウォーカー氏 (Discussions in Economics and Statistics, I, 211; 193236) 英國のニランマン氏 (Money and Monetary Problems, I, I, chs. V&VI) の如き其の錚々たる者なり。
杉氏 一二四頁

現今尙ほ純然たる貨幣數量説を奉ずる學者其の數少からず而して此の説を奉ずる者の所説は必ずしも全然合致せざるが如しと雖も主張者は大抵復

人若し杉氏の最近貨幣論を繙かば殆ど、毎頁「なりとす」てふ結句を發見すべし。思ふに杉氏が好みて使用する結尾の語調なり。これを念頭に置いて佐野博士の「錚々たるものなり」を杉氏が「錚々たるものなりとす」と修辭せるを見んか興味津々たるものあり。

更に杉氏は何故に佐野博士の記載せるニコルソン及ウォーカーの著書を削除せるや。思ふに之れ杉氏の英佛獨書を輕じ、邦書を重んずるの國粹保存の熱狂的精神の發露なるべし。余の言を疑ふ者はよろしく杉氏の卷頭一頁より八頁迄を熟讀すべし。蓋し思半に過るものあらん。杉氏は一頁より八頁に亘り英米獨佛及日本の著書八十一を根氣よく列擧し、その内比較的良好的なりと認めらるゝものとして我が堀江博士並ひに

山崎、佐野兩博士の著書のみを指摘せられたり。三博士が斯界の耆宿たるは、敢て杉氏の證言を要せず。たゞ杉氏のこの推賞は氏に於て特殊の意義を有し、その意義を解せる者のみ、杉氏が堀江佐野兩博士の著書よりの翻案を以て、能事畢れりとなせる眞情を窺ふの特權を有するものなりと云ふべし。

第三編 紙幣論

第一章 總論

第一節 紙幣の起源及性質

第二節 紙幣の種類及利害

以上は兩博士に見出さす。

第二章 不換紙幣

第一節 不換紙幣の意義及其の發行の目的

兩博士の文章を含ます

第二節 不換紙幣の利害

佐野博士第十六章第四節

第三節 不換紙幣發行の方法及機關

佐野博士第十六章第五節

第四節 不換紙幣整理の方策

佐野博士第十六章第五節
一節を數節に分割せるは本章第三節第四節のみなり。

佐野博士 四七一頁

若夫れ戦亂其他非常の場合に於て國幣疲弊し政府の信用大に衰へ多大の犠牲を以てするに非ざるよりは所要の資金を調達する能はざるに當り不換紙幣を發行して之を流行せしむるを得るに於ては政府は比較的の小なる犠牲を以て克く國用を辨するを得べく其財政上の利益最も大なるべきや明かたり

杉氏 三三二頁

若し夫れ戦亂其他非常の場合に於て國幣疲弊し政府の信用地に墮ち多大の犠牲を以てするにあらざるよりは所要の資金を調達する能はざるに當り不換紙幣を發行して之を流通せしむるを得るときは政府は比較的の小なる犠牲を以て克く國用を辨するを得べく其財政上の利益甚大なるや明なりと云ふべし

次に兌換紙幣の部より一例を引かん。

佐野博士 五一九頁

銀行たる者常に充分なる用心と周到なる注意を以て業務を行ふ者のみならず殊に割引貸附の依頼類々として起るに當り隨意に兌換券を發行することを得るに於ては一時其收益甚大なるを以て自然過多の弊に陥らざるを得ず已にして兌換の請求俄然起らんには銀行は終に之に應ずること能はずして恐るべき毒毒を社會に流布すべきや必然の數のみ。

第五節 不換紙幣の實例

佐野博士第十六章第六節

第三章 兌換紙幣

第一節 兌換紙幣の意義及性質

思ふに氏の筆なるべし。

第二節 兌換紙幣發行の利害

佐野博士第十七章第二節

第三節 兌換紙幣の發行權及其の發行機關

佐野博士第十七章第四節

第四節 兌換券發行の方法

佐野博士第十七章第五節

第五節 通貨主義及銀行主義

佐野博士第十七章第三節

第六節 列國兌換券制度概要

佐野博士第十七章第九節

第六節に於て佐野博士は制度を見出とし杉氏は國名を以てせるを以て一見異なるが如しと雖も、他は總て殆ど相等しきを見る。

第七節 小額紙幣

第八節 戦後の通貨整理方策に關する諸説此の二章は兩博士に記載せられず。

これにて杉氏第三編終る。

例により一部をとつて比較對照せんと欲す。

杉氏 三六五頁

銀行は必しも常に充分なる用心と周到なる注意を以て業務を經營するもののみならず殊に割引貸附の依頼類々として起るに當り隨意に兌換券を發行し得るに於ては一時其の收益大なるを以て自然濫發の弊に陥らざるを得ず已にして兌換の請求俄然起らんか銀行は終に之に應ずること能はずして恐るべき毒毒を社會に流布すべきは必然の數のみ

仔細に點檢し來らば、以上の外尙ほ擧ぐべき例證多々あるべしと雖も、これのみにも杉氏の著書は堀江博士の著書を一層弘布し、併せて佐野博士の著書の絶版を惜みて蘇生せしめんとしたる衷情に出づるものと斷じて可ならん。杉氏が取捨選擇に就きて衆人に卓越せる獨特の技能を享けたりや否や、自ら聲明せず、また余の些かも關知せざるところなり。唯その「最近貨幣論」が兩博士の貨幣論(この兩者が杉氏の所謂「參考」に資すべきもの寥寥たる「内に容るべきか將たその例外たるか、淺學なる余の判断を試みざるところなり)の形骸(敢てその精神と云は

ず)を彷彿せしむるに足るのみならず、一時に兩博士の文體を對照模倣せんとするものに對しても兼備、至大の便益を供する効果あるは、何人も異議を挿まざるべし。

然しながら之を以て、杉氏が兩博士の著書を完全に鵜呑みにしたりと誹謗するは、杉氏に對して著しく敬意を失するものなり。以下少しく斯くの如き誹謗の理由なき所以を述べし。第一に杉氏はその著書第一編第二章第二節に於て佐野博士の列擧せる定義を其儘轉載し、然る後、著名なる學者の定義を二三紹介すと前置して Walker, Helfferich, Nasse, Roscher, Johnson, Kinley 山崎博士の定義を記載し、敢て堀江佐野兩博士の定義を擧げず。思ふに之は明かに多年斯學の研究に従事せりと自負する杉氏の深き思索の結果ならんも、惜むらくはこれが爲めに短見者流をして皮相の見解を以て、剽竊を糊塗せんとする陋策なりとの非難を加へしむべし。また既に佐野博士より轉載したる文中に論及せる Nasse, Roscher, Kinley の定義を紹介したる懇切は過

しめたるべし。然れども元來本稿は寸益なりし新刊書に瞞着せられし迂愚に對する自己嘲罵の私語に過ぎず。敢て杉氏のために痛嘆せんがために非ざるなり。切に妄言を多謝す。(經濟學部豫科三年生萩原吉太郎)

きたるは及ばざるの譬に漏れず、「繁閑宜しさを得ざる」肱贅の典型なりとの攻撃に對する好辭柄を興へたり。角を矯めて牛を殺し、虎を描きて猫に類するものなりと嘆すべし。

之と反對に杉氏の鱗案に如何に熱心なるかを示す實例は、既に擧げたる外に一層適切なるものあり。現在に於ては「貨幣價格」なる用語に接すること頗る稀なれども、杉氏は佐野博士の用例を踏襲して、斷乎として死語を復活せしめたること之なり。貨幣の定義を改竄するの餘裕を有せる杉氏を以てすれば、之を「貨幣價值」と訂正するは容易ならんも、殊更、衣鉢を襲がんとしたる苦衷思ふべし。徒に換骨奪胎の末技、不手極とのみ難するは當らず。

摺筆するに方り邦書の鱗案を以て上梓を企圖せんとする場合に、若し後進の爲めに今少しく親切にして原書を明瞭に記載し、「著作」と云はずして「編纂」と稱したらんには、敢て杉氏の學識と名譽と地位を冒瀆するものなかるべく、また淺學なる余をして比較對照の煩勞をも回避せ

雜報

理財學會々報 例會 加田哲二、園乾治兩教授の留學訣別講演會として二月十六日午後舊演說館に於て開催せり。

園教授「工場生活と勞働法制」
加田教授「マルクスの價值論と河上博士の解釋」

送別晚餐會 兩教授並に本會本三幹事の送別晚餐會を同日夕五時より萬來舎に於て催せり。

今年度卒業の幹事氏名次の如し。
稻上芳雄。柳滿珠雄。黒川忠。中島喜代市郎
小堀治平。岩崎秀雄。西村政雄。

三邊教授を初め奥井、金原、津田の諸氏並に幹事一柳、櫻森、仙田、山田、平野、駒崎、夏目江越、出席せり。以上